

2023・12

柏の景気情報

令和5（2023）年12月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年12月の調査結果のポイント)

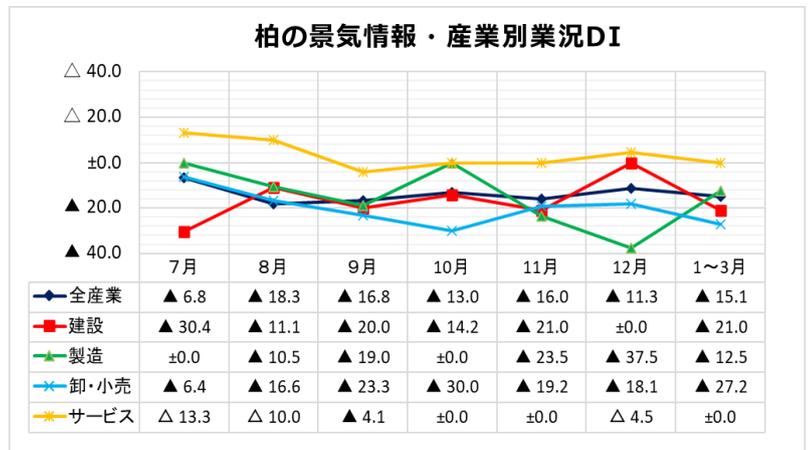
★調査結果のまとめ

回答期間：令和5年12月20日～令和6年1月9日 調査対象：柏市内175業所及び組合にヒアリング、回答数79

生産性向上に向けた取り組み、適性単価の確保に向けた値上げが徐々に進むが、収益環境は依然厳しい…

12月の全産業合計のD I値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.3（前月水準▲16.0）となりマイナス幅が4.7ポイント縮小した。

全業種に共通して、コスト負担増と人手不足は継続。その中でも建設業は、職人の高齢化や若手職人の定着が困難ゆえ人材確保に難航。物価高による消費者の買い控えや暖冬が影響し、衣料品関係を中心とした卸小売やサービス業では苦戦の声が聞かれ、飲食関連からは売上は改善するもコロナ前には及ばないといったコメントが寄せられた。製造業では、年度末へ向けた在庫調整の重要性が高まり、収益を左右するポイントにもなっている。



★業種別の動向

前月と比べたD I値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「職人不足で以前よりも工期を長めをお願いしている。その間にも資材や人件費の高騰は続いているため、長くなればなるほど利益は出ない」（建築工事） 「従業員の確保が難しい。若い人は、休日確保+高時給+きれいな仕事を好むため、建築業には人材確保は望めないのが現実となっている」（とび） 「値上げがハイスピードすぎて価格転嫁が追い付かない現状」（土木工事）



製造業

「今年は暖冬の為、冬季需要が例年に比べ減少する事が予想される。例年より在庫が増えそう」（自動車付属品製造） 「インボイス対応でカード支払いの領収書、ETC カード払いの利用明細書等収集に手間と時間を費やし不便さを感じる。売上予測の不透明感が加速している」（金属製品） 「主力製品の在庫調整等が年度末に予想されるため厳しい状況。ただ、設備投資した新規事業がようやく上向きになってきたのは明るい材料」（その他の鉄鋼業） 「物価高による影響で仕入先の価格改定が続いている」（その他の化学工業）



卸・小売業

「売上は増加するも依然として収益は厳しい。人件費の変動についていけず確保が難しい」（各種商品小売） 「気温が下がりきらない影響で12月に入っても冬物の重衣料や肌着の動きが鈍い。食品関係は昨年並みの水準だがお客様は価格に対して非常に敏感」（大型小売店） 「外出する人が増えたことで、地元で買い物しようとする人が少なく感じる」（コンビニ） 「クリスマスケーキの予約が昨年より上昇」（洋菓子店）



サービス業

「忘年会は来店組数は増加するも、1組あたりの人数減少でコロナ前の売上には及ばず」（日本料理） 「ケーキやおせち料理をお取り寄せする人が増加。福袋を店頭販売から配送に転換する企業も出てきて仕事は山積みだが人手が間に合っていない」（運送） 「仕入単価、消耗品、光熱費、委託管理費などが上昇し続けている。賃上げも控えているため利益確保に向けて不要不急の支出を減らして調整をしていく予定」（スポーツ施設） 「扶養範囲内で働きたいとする者も多く、賃金を上げてでも人手不足の解消には繋がらず…」（飲食店）

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.3に対し、「CCI-LOBO」が▲8.4で、柏のほうがマイナス幅が2.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.3	 ± 0.0	 ▲ 37.5	 ▲ 18.1	 4.5
CCI-LOBO	 ▲ 8.4	 ▲ 11.0	 ▲ 8.1	 ▲ 6.9	 2.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 5.0	 ▲ 10.5	 ▲ 37.5	 4.5	 13.6
CCI-LOBO	 3.3	 ▲ 3.8	 3.4	 ▲ 6.1	 14.3
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.9	 ▲ 5.2	 ▲ 43.7	 ▲ 22.7	 ▲ 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.6	 ▲ 16.6	 ▲ 10.3	 ▲ 16.1	 ▲ 4.9
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 58.2	 ▲ 26.3	 ▲ 81.2	 ▲ 81.8	 ▲ 45.4
CCI-LOBO	 ▲ 65.0	 ▲ 71.2	 ▲ 59.8	 ▲ 71.4	 ▲ 63.3
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.5	 26.3	 18.7	 22.7	 18.1
CCI-LOBO	 23.7	 38.2	 14.3	 20.3	 29.4
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 1.2	 ± 0.0	 ± 0.0	 ▲ 13.6	 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 9.3	 ▲ 3.8	 ▲ 9.9	 ▲ 17.8	 ▲ 6.5

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測 (12月速報)

調査期間：2023年12月13日～19日

調査対象：全国の328商工会議所が2,470企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、7か月ぶりに改善も、物価高の重荷続く

先行きは、国内需要の伸び悩み懸念から厳しい見方

12月の全産業合計の業況DIは、▲8.4と前月比から△1.3ポイントの改善

製造業では、自動車関係や飲食品関係の需要増がけん引し、改善した。また、サービス業では、経済活動の回復に伴い、忘年会等の年末需要が増加した飲食・宿泊業を中心に改善し、卸売業でも、飲食・宿泊業からの引き合い増

加で改善した。一方、建設業では、公共工事の受注が下支えする中、資材価格の高止まりでほぼ横ばいにとどまり、小売業では、物価高による消費者の買い控えの影響で悪化が続いている。

エネルギー価格の高騰や人手不足に伴う人件費の増

加等、コスト増は業種を問わず続いている。また、深刻な人手不足や適正な価格転嫁への対応等、経営課題は多く中小企業の業況は7か月ぶりに改善を示すも、力強さを欠いている。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業と製造業とサービス業は改善し、小売業は悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

「工事案件は安定しており、売上は維持できている。

一方、資材価格や燃料価格の高止まりでコスト負担増は継続しており、採算は悪化が継続している。また、人材確保・定着に向けて賃上げに取り組んだが、労務費の上昇分の価格転嫁は取引先との交渉が難しく、足踏みしている」(一般工事業「社内の若返りに向けて新規採用を検討しているものの、コスト負担が増加する中で好条件での募集は難しく、思うように進んでいない」(管工事業)

【製造業】

「挽回生産の恩恵もあり、今年は受注が好調に推移しており、年度末にかけてもこの流れが続く見通しである。一方、受注数の増加に伴い人手不足が深刻化しており、人材確保と合わせて従業員のモチベーション維持・離職防止の観点から引き続き賃上げに取り組む」(輸送用機械器具製造業)

【卸売業】

「需要増で売上が増加。今年には賃上げに加え、従業員の休日を増やしたが、増加した休日分を補填する生産性向上の取組みが課題である」(調味料製造業)

【小売業】

「飲食店からの引き合い増加で業績に改善の兆しが見られているが、物価高で個人消費が一層停滞することを危惧している」(農畜産水産品卸売業)

【サービス業】

「秋の行楽シーズンは終了したものの、インバウンドを含め客数・客単価ともに好調に推移している。一方、仕入価格の上昇については販売価格に価格転嫁が行えているものの、電気代等のエネルギー価格の高騰分までの十分な価格転嫁は進んでおらず、採算は伸び悩んでいる」(百貨店)

「物価高で消費者の節約志向が高まっており、商店街全体が静かである。売上が伸びない中、最低賃金を守ることで精一杯な店舗が多い」(商店街)

【忘年会・新年会】

「企業の宴会や大人数での忘年会・新年会の予約が堅調に推移しており、売上・収益とも

増加が期待できる状態である。しかしながら、足元ではインフルエンザ等の感染症が流行しており、キャンセルの発生が危惧されている」(飲食店)

「国内旅行者に加え、インバウンド需要の増加で国内観光の需要は堅調に推移しているものの、円安基調で海外旅行の需要は停滞が続いている」(旅行業)

全国・産業別業況DIの推移

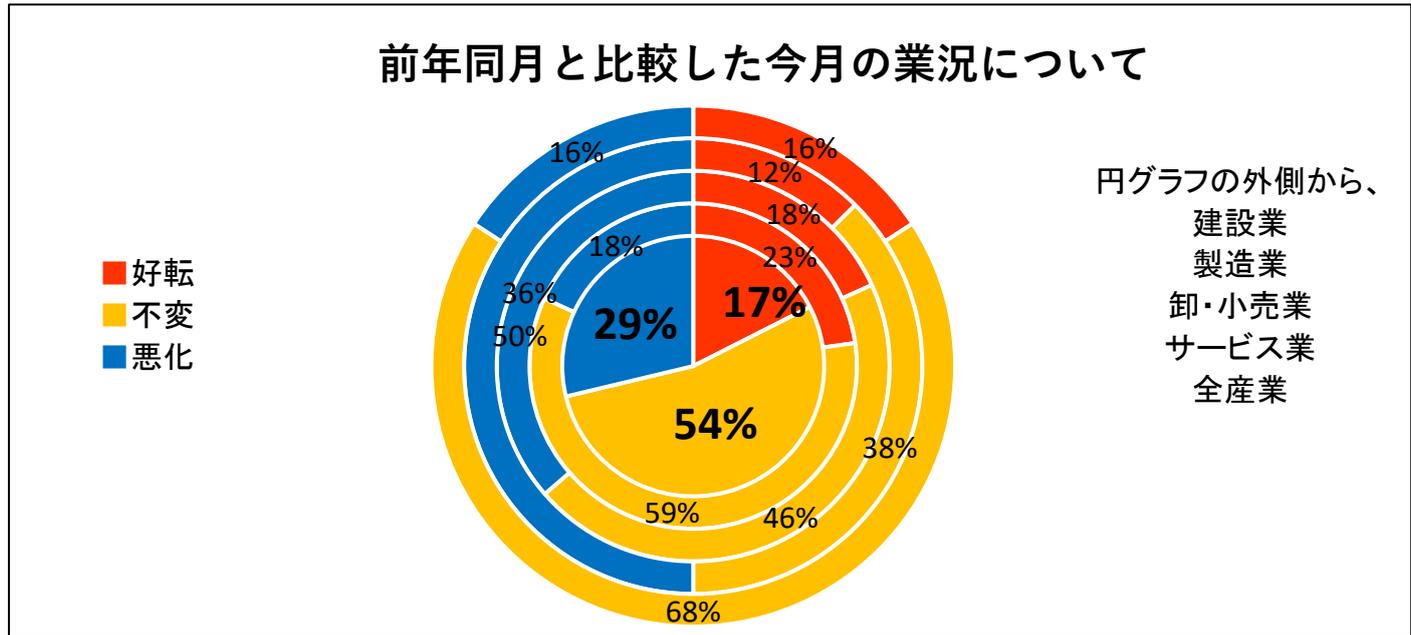
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲ 9.8	▲ 19.2	▲ 4.1	▲ 20.9	▲ 18.5	△ 2.4
8月	▲ 8.9	▲ 18.8	▲ 5.6	▲ 22.6	▲ 12.7	△ 3.4
9月	▲ 9.0	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 19.7	▲ 9.2	△ 0.2
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
11月	▲ 9.7	▲ 11.7	▲ 10.2	▲ 12.0	▲ 18.7	△ 0.2
12月	▲ 8.4	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 6.9	▲ 20.8	△ 2.4
見通し	▲ 14.3	▲ 12.2	▲ 13.5	▲ 15.1	▲ 22.0	▲ 10.0

令和5年（2023年）12月の動向

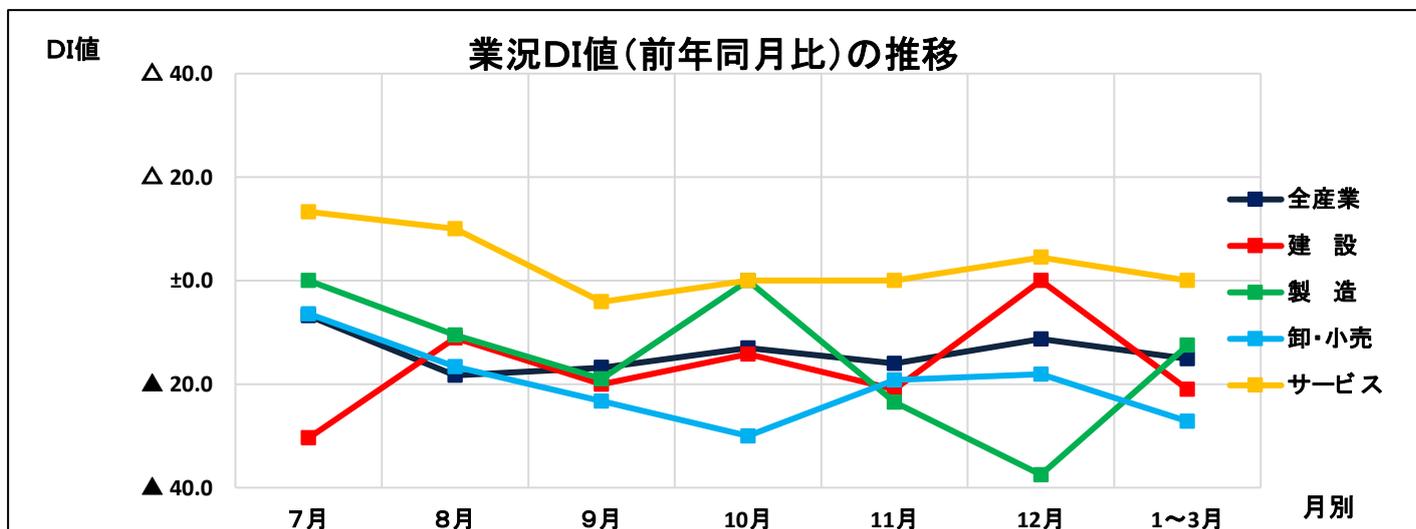
【業況について】

- 12月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.3（前月水準▲16.0）となり、マイナス幅が4.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲15.1（前月水準▲8.6）となり、マイナス幅が6.5ポイント拡大した。



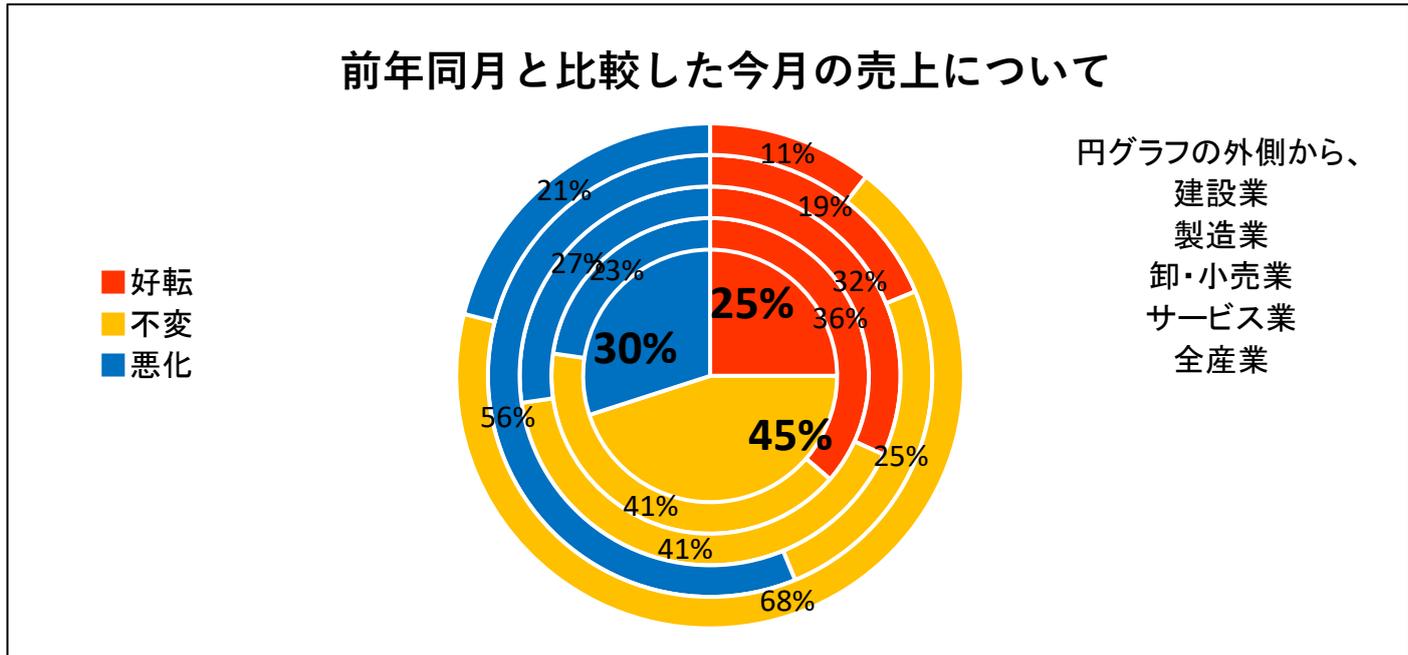
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)	(12~2月)
全産業	▲6.8	▲18.3	▲16.8	▲13.0	▲16.0	▲11.3	▲15.1	▲8.6
建設	▲30.4	▲11.1	▲20.0	▲14.2	▲21.0	±0.0	▲21.0	▲10.5
製造	±0.0	▲10.5	▲19.0	±0.0	▲23.5	▲37.5	▲12.5	▲17.6
卸・小売	▲6.4	▲16.6	▲23.3	▲30.0	▲19.2	▲18.1	▲27.2	▲7.6
サービス	△13.3	△10.0	▲4.1	±0.0	±0.0	△4.5	±0.0	±0.0



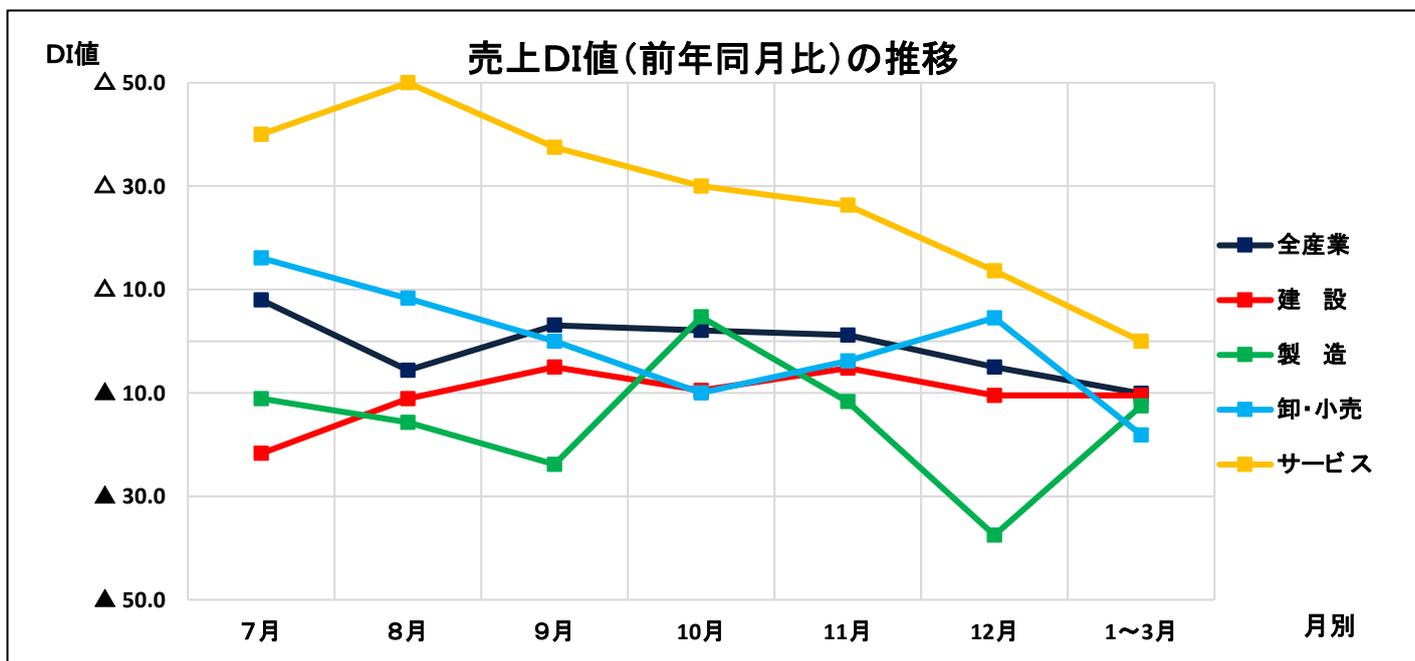
【売上について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.0(前月水準△1.2)となり、マイナス幅が6.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.1(前月水準▲6.1)となり、マイナス幅が4.0ポイント拡大した。



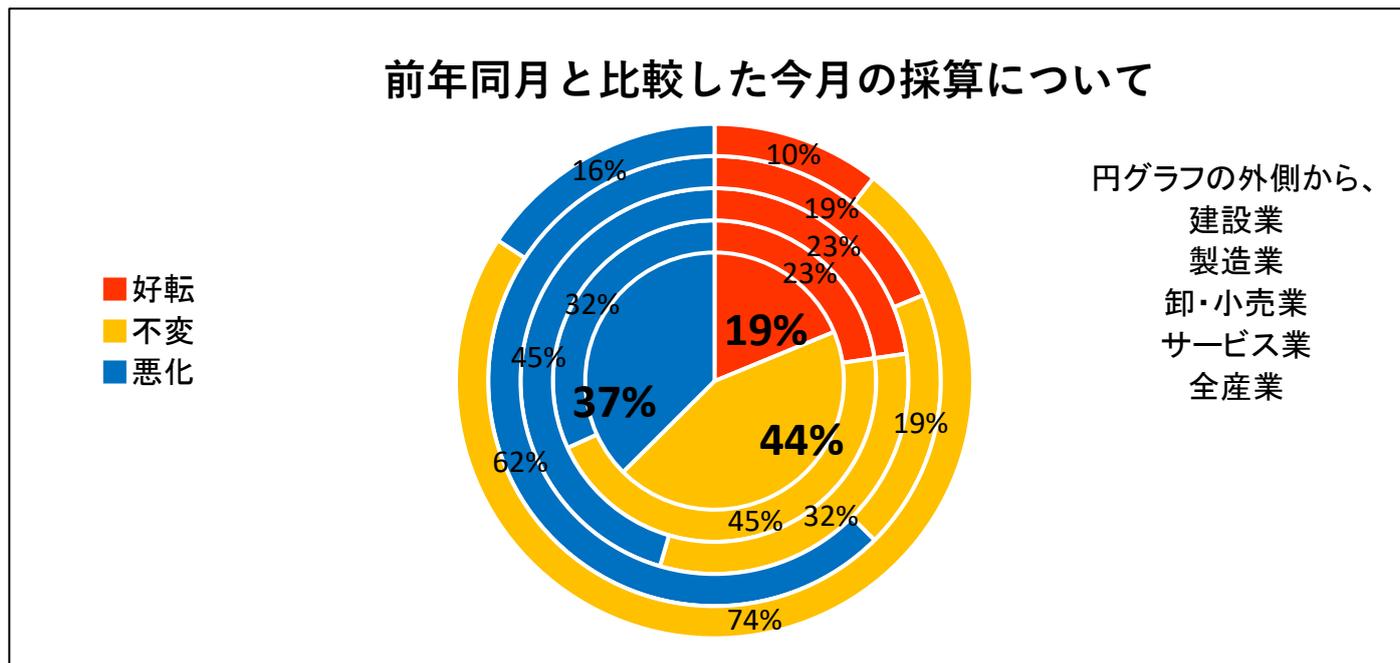
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和5年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	(12~2月)
全産業	△8.0	▲5.6	△3.1	△2.1	△1.2	▲5.0	▲10.1	(▲6.1)
建設	▲21.7	▲11.1	▲5.0	▲9.5	▲5.2	▲10.5	▲10.5	(▲10.5)
製造	▲11.1	▲15.7	▲23.8	△4.7	▲11.7	▲37.5	▲12.5	(▲11.7)
卸・小売	△16.1	△8.3	±0.0	▲10.0	▲3.8	△4.5	▲18.1	(△3.8)
サービス	△40.0	△50.0	△37.5	△30.0	△26.3	△13.6	±0.0	(▲10.5)



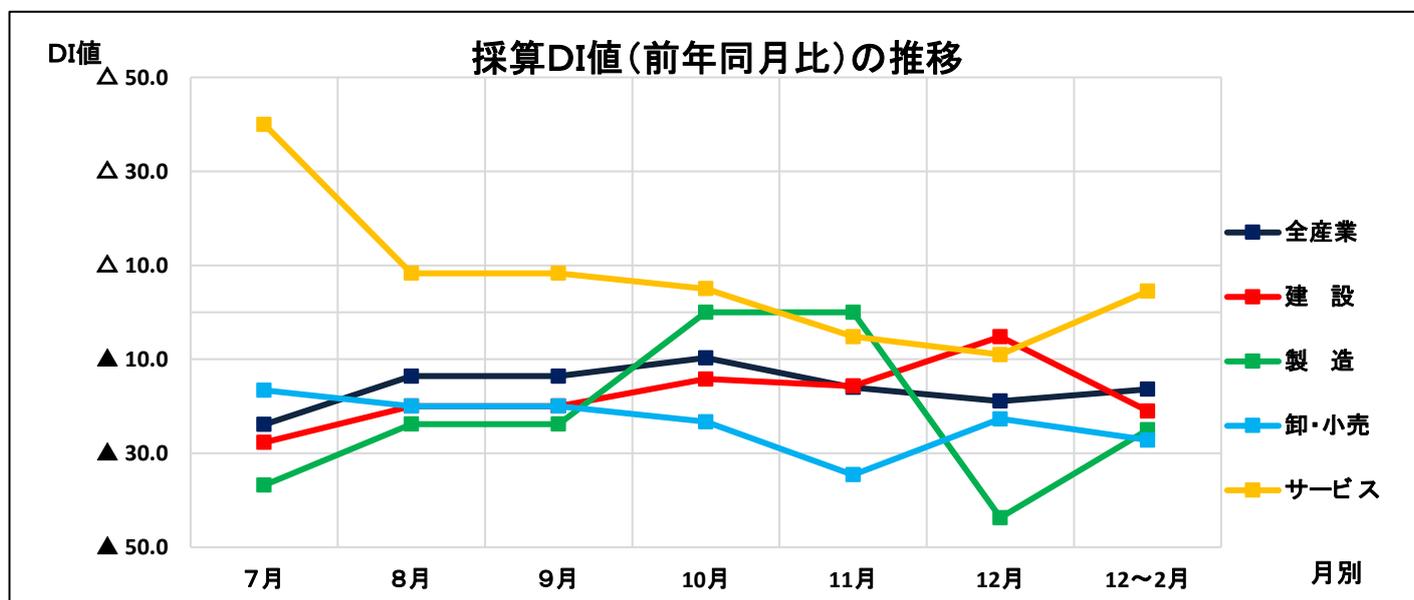
【採算について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.9(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.4(前月水準▲6.1)であり、マイナス幅が10.3ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

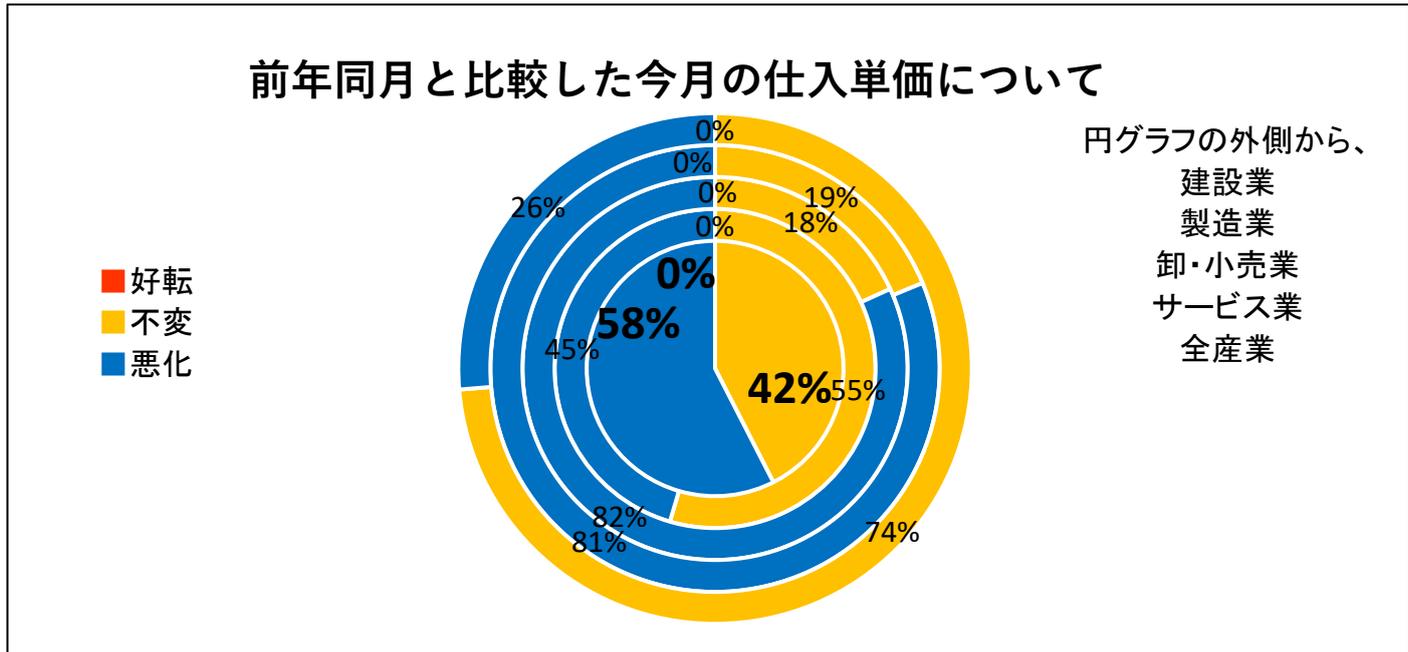
	令和5年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	12~2月 (12~2月)
全産業	▲23.9	▲13.6	▲13.6	▲9.7	▲16.0	▲18.9	▲16.4 (▲6.1)
建設	▲27.7	▲20.0	▲20.0	▲14.2	▲15.7	▲5.2	▲21.0 (▲5.2)
製造	▲36.8	▲23.8	▲23.8	±0.0	±0.0	▲43.7	▲25.0 (▲23.5)
卸・小売	▲16.6	▲20.0	▲20.0	▲23.3	▲34.6	▲22.7	▲27.2 (±0.0)
サービス	△40.0	△8.3	△8.3	△5.0	▲5.2	▲9.0	△4.5 (±0.0)



【仕入単価について】

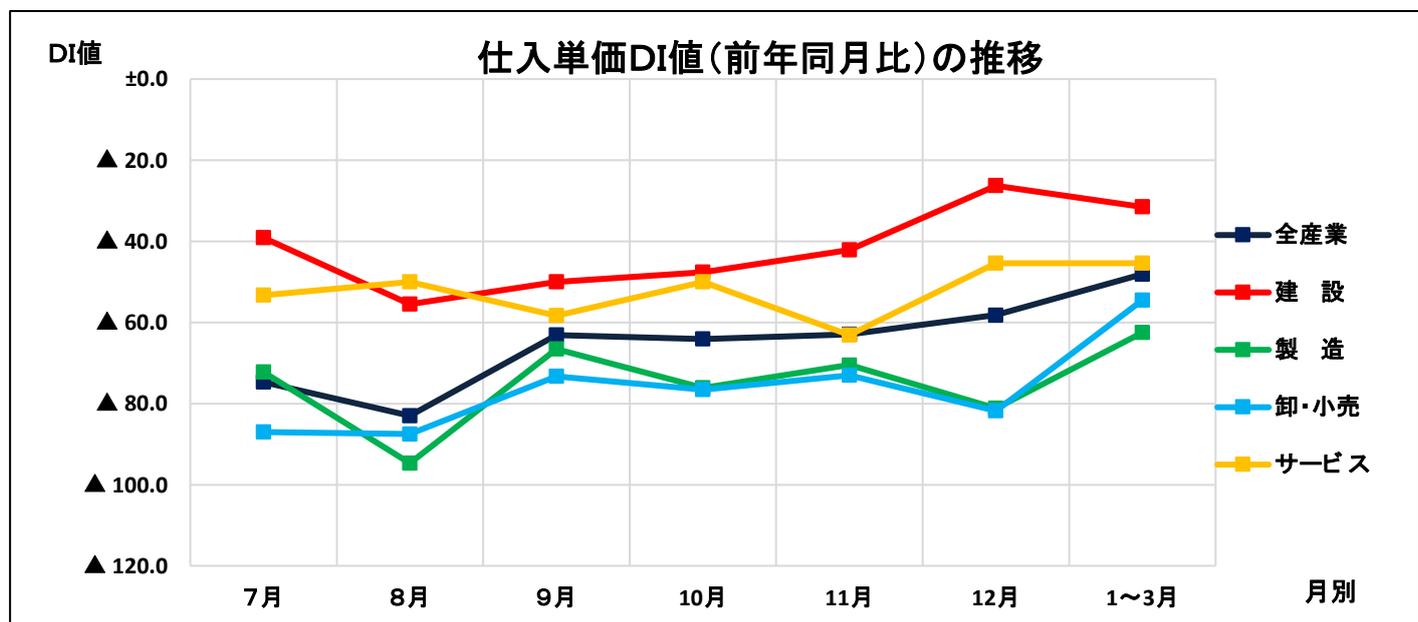
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲58.2(前月水準▲62.9)となり、マイナス幅が4.7ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1(前月水準▲56.7)となり、マイナス幅が8.6ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

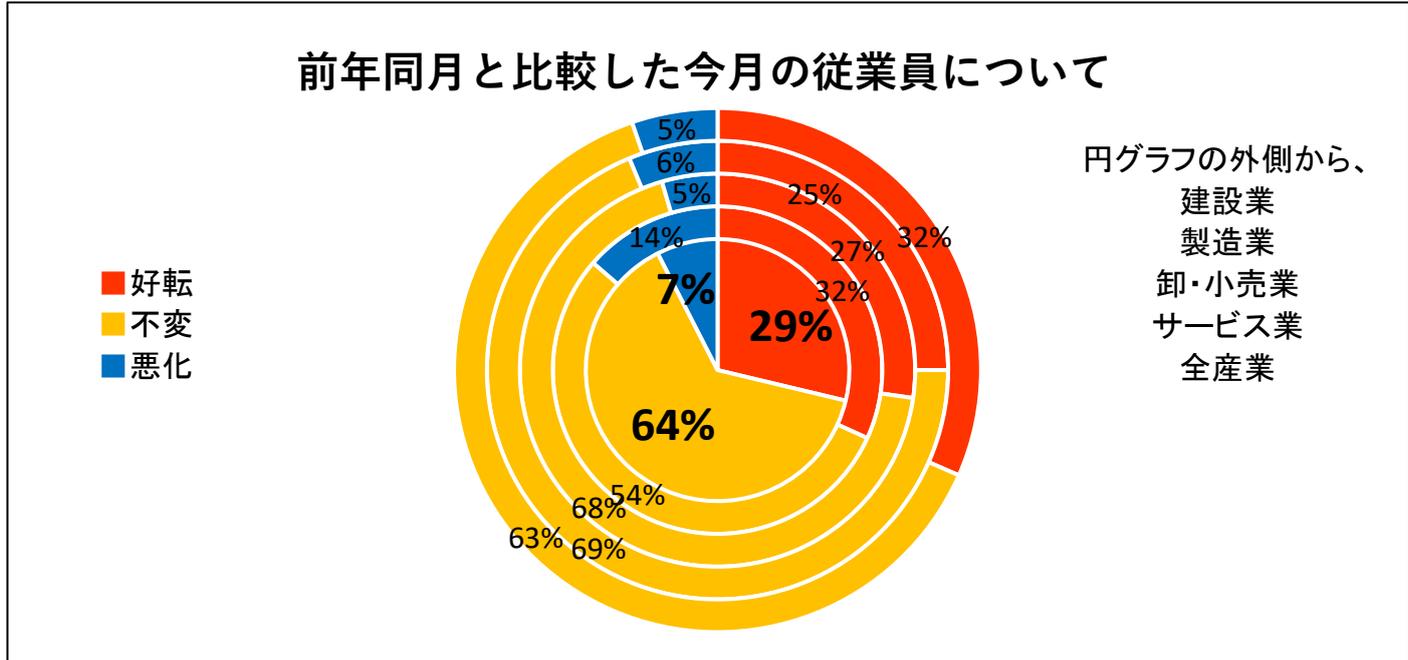
	令和5年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)
全産業	▲74.7	▲83.0	▲63.1	▲64.1	▲62.9	▲58.2	▲48.1 (▲56.7)
建設	▲39.1	▲55.5	▲50.0	▲47.6	▲42.1	▲26.3	▲31.5 (▲47.3)
製造	▲72.2	▲94.7	▲66.6	▲76.1	▲70.5	▲81.2	▲62.5 (▲52.9)
卸・小売	▲87.0	▲87.5	▲73.3	▲76.6	▲73.0	▲81.8	▲54.5 (▲73.0)
サービス	▲53.3	▲50.0	▲58.3	▲50.0	▲63.1	▲45.4	▲45.4 (▲47.3)



【従業員について】

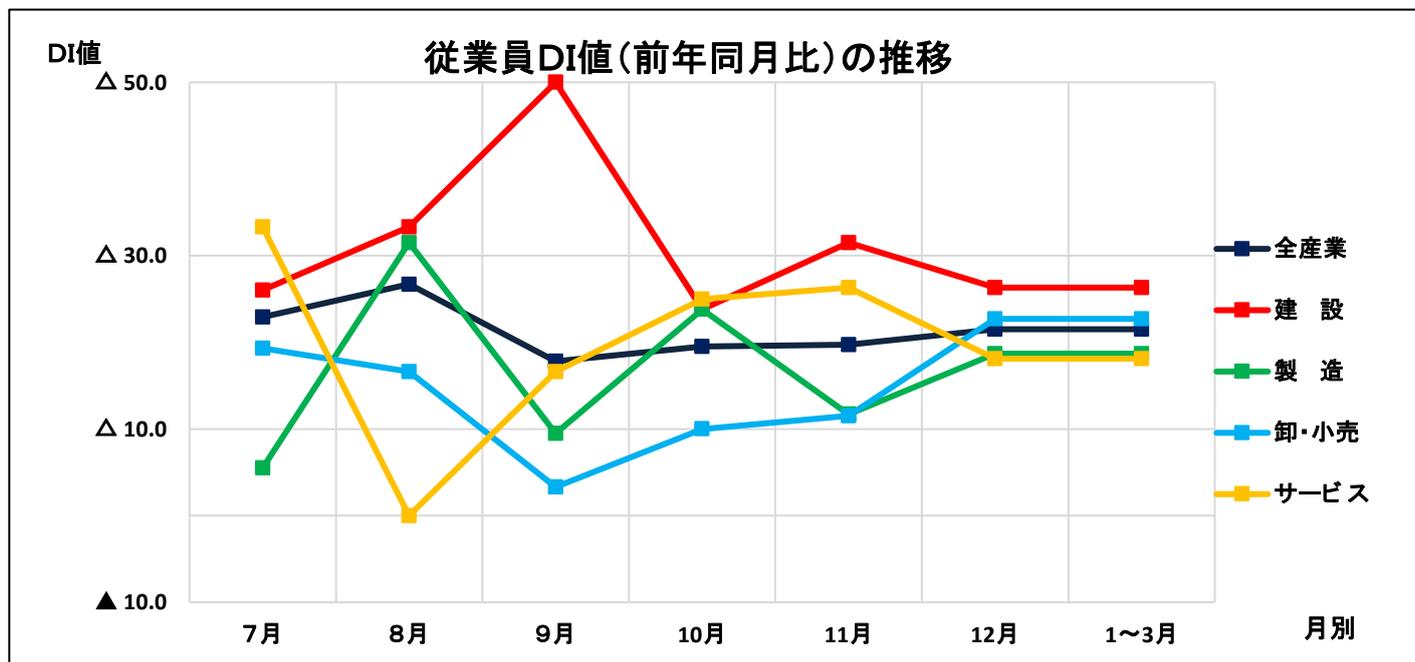
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.5(前月水準△19.7)となり、プラス幅が1.8ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.5(前月水準△18.5)となり、プラス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。



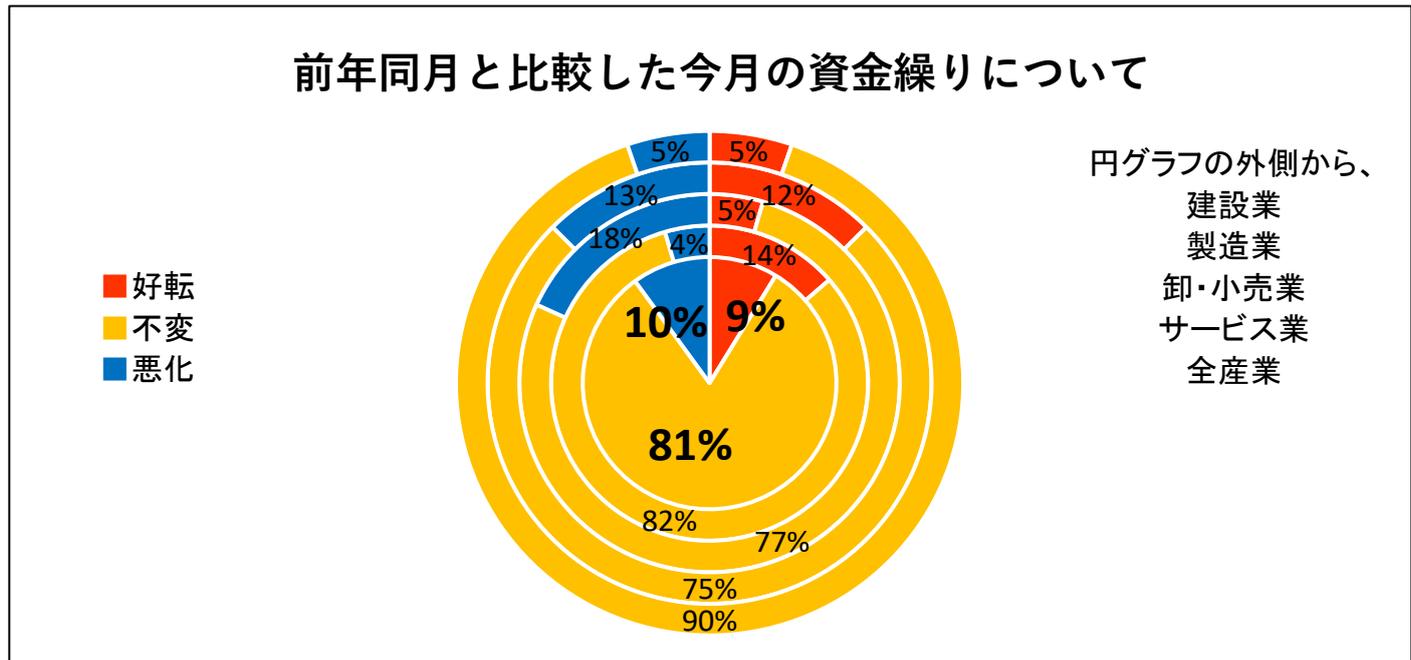
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)
全産業	△22.9	△26.7	△17.8	△19.5	△19.7	△21.5	△21.5 (△18.5)
建設	△26.0	△33.3	△50.0	△23.8	△31.5	△26.3	△26.3 (△31.5)
製造	△5.5	△31.5	△9.5	△23.8	△11.7	△18.7	△18.7 (△17.6)
卸・小売	△19.3	△16.6	△3.3	△10.0	△11.5	△22.7	△22.7 (△7.6)
サービス	△33.3	±0.0	△16.6	△25.0	△26.3	△18.1	△18.1 (△21.0)



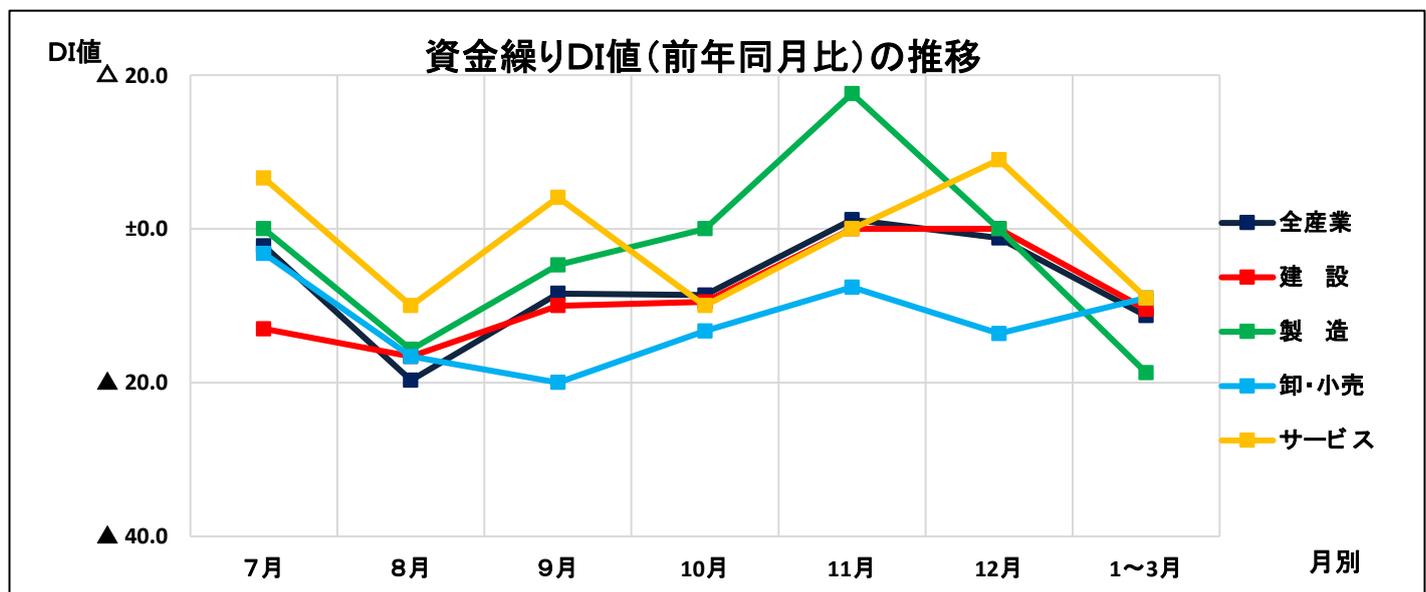
【資金繰りについて】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.2(前月水準△1.2)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.3(前月水準▲4.9)となり、マイナス幅が6.4ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月 (12~2月)
全産業	▲2.2	▲19.7	▲8.4	▲8.6	△1.2	▲1.2	▲11.3 (▲4.9)
建設	▲13.0	▲16.6	▲10.0	▲9.5	±0.0	±0.0	▲10.5 (▲5.2)
製造	±0.0	▲15.7	▲4.7	±0.0	△17.6	±0.0	▲18.7 (▲11.7)
卸・小売	▲3.2	▲16.6	▲20.0	▲13.3	▲7.6	▲13.6	▲9.0 (▲3.8)
サービス	△6.6	▲10.0	△4.1	▲10.0	±0.0	△9.0	▲9.0 (±0.0)

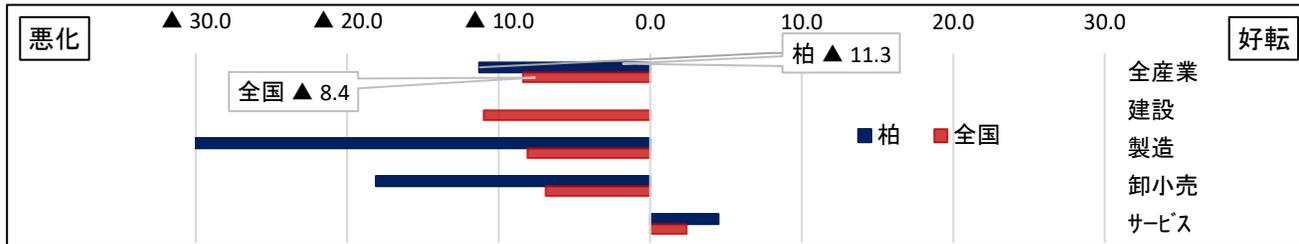


全国（CCI-LOBO）との比較

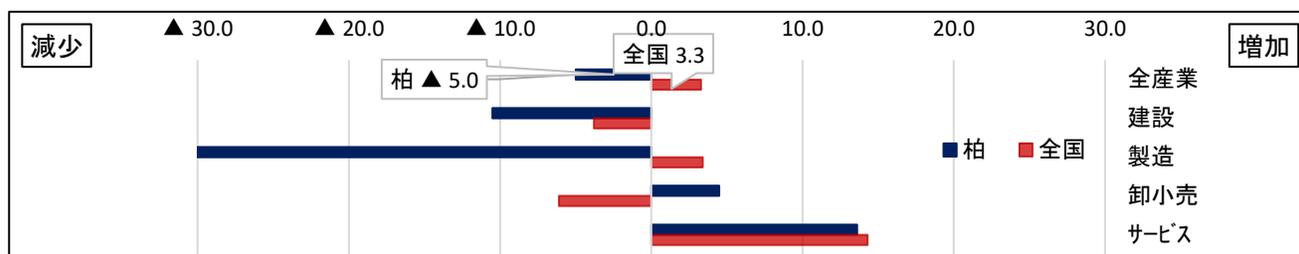
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

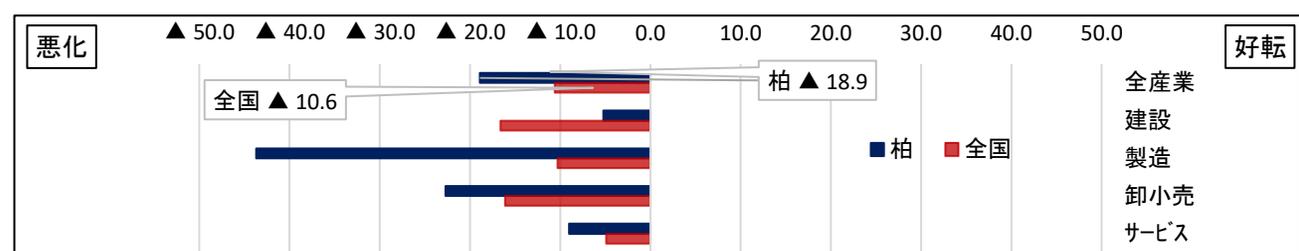
【業況D I】



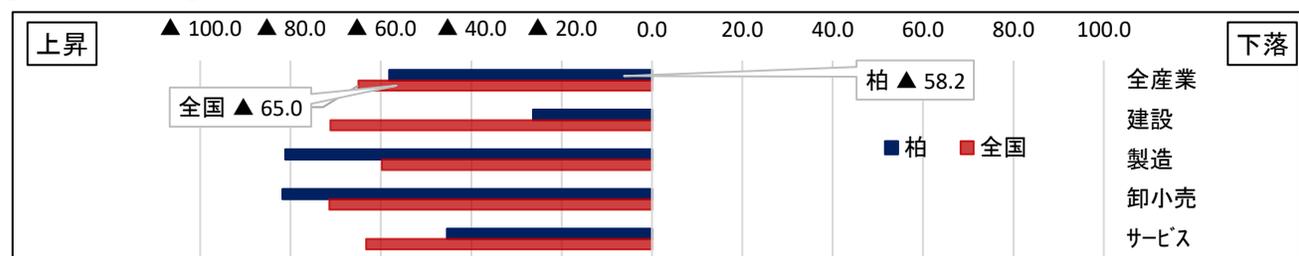
【売上D I】



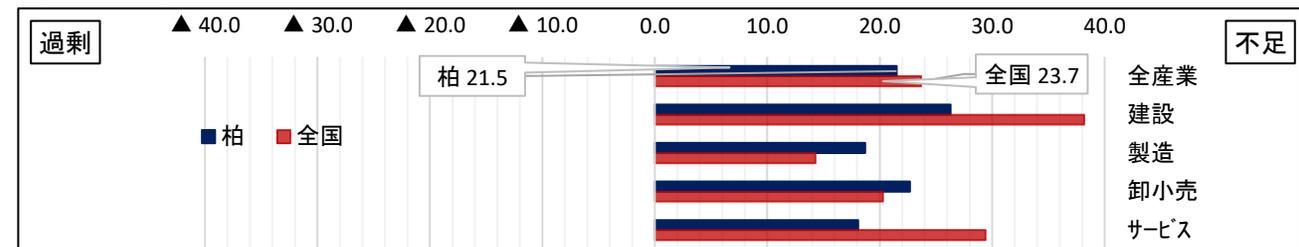
【採算D I】



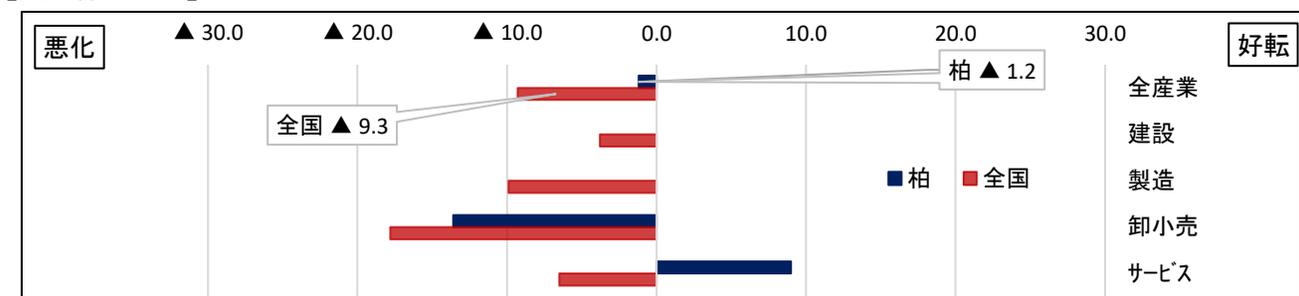
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	従業員の確保が難しい。 年末に寸志を渡すが それをもらってから年内で辞める若い従業員がいる。 若い人は、休み確保+高時給+きれいな仕事を好むので、建築業には人材確保は望めないのが現実となっている	とび
	職人不足で以前よりも工期を長めをお願いしている。その間にも資材や人件費の高騰は続いているため、長くなればなるほど利益は出ない。	建築工事業
	値上げがハイスピードすぎて価格転嫁が追い付かない現状	土木工事業
	来年のお正月はコロナ明けで、家族集合が多くなるからか、一般のお客様の畳工事受注が年末に増加。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	原材料等仕入価格上昇が続いている。円相場が戻りつつあるのが明るい兆し。	機械・同部品製造業
	医療品容器の顧客は既存品受注、新企画立ち上げ共に順調に推移してるが化粧品容器の顧客に関しては一進一退を繰り返しており利益が出ない。	プラスチック加工
	インボイス対応でカード支払いの領収書、ETCカード払いの利用明細書等収集に手間と時間を費やしている。一時的なものかわからないが不便さを感じる。売上予測の不透明感が加速している。	金属製品
	意識改革の中で生き残り、継続を考える動きがそれぞれに出来ている。	印刷業
	主力製品の在庫調整等が(1月~3月)3ヶ月間の年度末に予想されるため予想以上に厳しい状況。ただ、設備投資した新規事業がようやく上向きになってきたのは明るい材料	その他の鉄鋼業
	景気に関しては、コロナ前にまだまだ戻っていない感覚。 電子帳簿保存法への対応を進めているが、業務が増えて負担にはなる。 社員の高齢化による人手不足が課題。 物価高による影響で仕入先の価格改定が続いている。	その他の化学工業
	今年は暖冬の為、冬季需要が例年に比べ減少する事が予想される。例年より在庫が増えそう。	自動車付属品製造業
卸・小売	外出機会の増加で年末年始の巣ごもり商品の需要はダウンしているが、値上げの影響で売上金額自体は変化なし	大型小売店
	クリスマスケーキの予約が昨年より上昇	洋菓子店
	売上げは増加。しかし依然として収益は厳しい。 人件費の変動についていけず確保が難しい。	その他の各種商品小売業
	気温が下がりきらない影響で12月に入っても冬物の重衣料や肌着が動きが鈍い状況が続いた。食品関係は昨年並みの水準だがお客様は価格に対して非常に敏感。	大型小売店

【業種別】 業界内トピックス

業	外出する人が増えたことで、地元で買い物しようとする人が少なく感じる。	各種商品小売業(コンビニ)
	ECサイトの大規模セールの前は、実物を手に取り確認するだけで購入には繋がらない	家電小売店
サービス業	扶養範囲内で働きたいとする者も多く、賃金を上げたところで人手不足が解消するわけではなく、解決策が見いだせない	専門料理店
	仕入単価、消耗品、光熱費、委託管理費などが上昇し続けている。賃上げも控えているため利益確保に向けて、不要不急の支出を減らして調整をしていく予定。	スポーツ施設
	人手不足。若手社員教育もまばらで育成から会社成長にも難攻してる状況。	ソフトウェア業
	最低賃金の引き上げに伴って10月分給与から時給を50円上げたが、やはり負担が大きいため、初年度だけでも公的な支援が受けられるとありがたい。	学習塾
	消費税インボイス制度導入に伴う会計処理についてまだ不安に感じている。2024年は活発に活動して事業を伸ばしたい。	地質調査・地質コンサルタント
	忘年会は来店組数増も1組あたり人数の減少でコロナ前の売上げには及ばず	日本料理
	年末年始くらいは贅沢したいというメリハリ消費を楽しむお客様が例年より多かった気がする	ホテル
	駅徒歩圏の居住用賃貸市場の賃料設定は、強気相場を維持	不動産賃貸・管理業
	<<国内旅行>> 12月に入り急に冷え込んだ、来年1月~2月は我慢、3月に期待したい <<海外旅行>> 徐々にではあるが回復の兆し、円高の傾向もあり、近場の台湾、韓国の申し込みが目立つ。ハワイは来年の夏以降になるかも	旅行業
	ケーキやおせち料理などをお取り寄せする人が増加。福袋を店頭販売から配送に切り換える企業も出てきたりと仕事は山積みだが人手が間に合っていない。	運送業

調査要領

回答期間

令和5年12月27日 ~ 令和6年1月9日

調査対象

柏市内175事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	175	79	45.1%
建設	43	19	44.2%
製造	41	16	39.0%
卸・小売	45	22	48.9%
サービス	46	22	47.8%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				